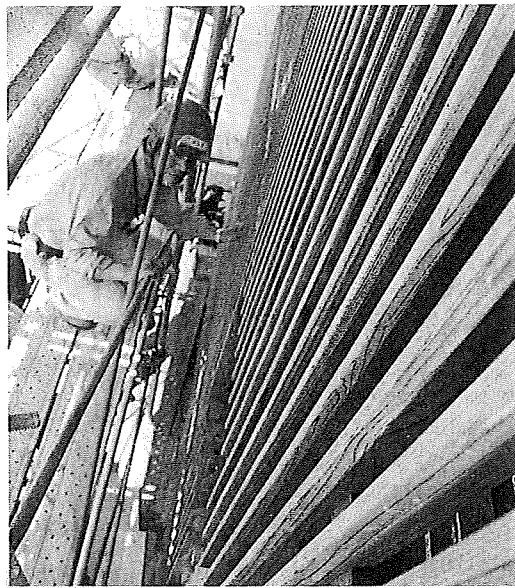


2010年(平成22年)9月4日(土曜日)

# クールビズ 実証実験 国産木材パネルで囲い

木材パネルで鉄筋コンクリート製ビルを囲うことで「ヒートアイランド現象」を緩和させる実証実験を、府や府木材連合会など産官学でつくる対策協議会が近く、大阪市西区のビルで始める。温度の変化などを測定し、実用化に向けた工法を検証。国産材を普及させる狙いもある。

ヒートアイランド現象は、都市部で、地表面がアスファルトで覆われているほか、クーラーや車の排熱などで気温が上昇する現象。コンクリートは日中に熱をためやすく、夜にゆっくりと放出するため、夜間の温度上昇につながる。その一方で、外壁を熱容量の小さな木材で覆うことで、ビルの熱のためこみや放出を緩和する効果が見込



鉄筋コンクリート製の外壁を覆う木材パネル（大阪市西区で）

まれている。

府などが昨秋、同市北区中之島で行った実験では、木材パネルを張った川の護岸壁は、張られていない部分よりも約3度温度が低かったという。

このため、木材を温暖化対策に利用しようと、今年1月、府や大阪市、大阪大学、同市内の木材会社など

階建て鉄筋コンクリートビル南側の壁約500平方メートルを利用。防腐、難燃処理した国産のスギを使い、羽板型など6種類のパネルで壁面を覆う。

9月中は、パネルで覆った約125平方メートル、覆われていない部分との温度の変化や、パネルの形状を変えたり、格子状に設置するなど張り方を変えたりして違いを比較。さらに12月末までに全面を覆い、冬場での状況も測定しながら来年にかけて検証を進める。

同協議会は「温度削減効果が実証され、国産材の利用が進めば、国内の林業振興にもつながる」と話している。

## ヒートアイランド対策 府など

が「国産材を活用したヒートアイランド対策協議会」（代表幹事、水野稔・大阪大名誉教授）を結成。コンクリートの小屋に木材を張るなどして実験してきた。今回の実証実験では、同市西区の大阪木材会館の6